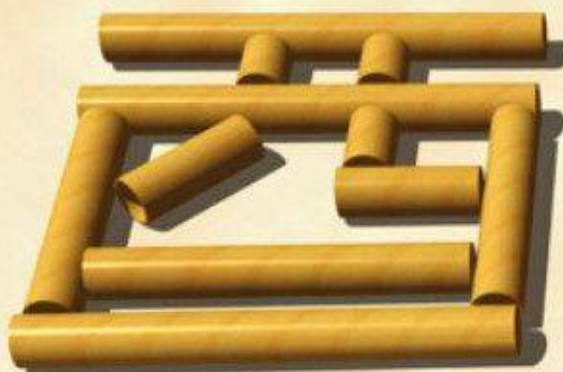


A HAPPY NEW YEAR



祝 組合創立四〇周年

二〇〇五年 年頭所感

理事長 竹本 實生 (日本紙管工業株式会社代表取締役)

新年あけましておめでとうござい
ます。

二〇〇五年の新春を迎え、謹んで新
年のお慶びを申し上げます。

組合員、理事、そして役員の皆様方
におかれましては、ご健勝でよき新年
をお迎えの事と存じます。旧年中は、
組合運営に皆様方の多大なご協力ご
支援を頂き誠に有難く、厚く御礼申
上げます。

私儀、昨春はからずも旭日小綬章
の榮に浴しましたところ、皆様よりご
鄭重なるご祝詞や激励のお言葉を賜
わり、深く感謝いたしております。斯
業界における貢献の少ない私が、身に
余る榮譽を受けましたことは、これ偏
に、日頃より格別のご芳情を頂いてお
ります会員皆様のご教示ご支援の賜
と存じ、感謝を新たにしている次第で
す。

新年を迎えあらためて御礼を申し
上げますと共に、皆様のご期待に反か
ぬように精進する所存で御座います。
昨年は、地球温暖化の影響とも言
われておりますが、夏の異常な酷暑と
共に台風が十数個襲来し、特に台風
二十三号は近畿地区に大きな被害を
もたらしました。

更に十月二十三日夕刻ごろ、新潟
県中越地方を震源とする「新潟中越
地震」が発生し、被災者の皆様に心か
らお見舞い申し上げます。状況が落ち
着くまでには、まだ時間がかかると思

いますが、お体に気をつけて頂き、一日
も早い普通の生活に戻れますようお
祈り申し上げます。

全国紙管工業組合も、紙関連諸団
体並びに関係各位のご協力を賜わり、
今年九月には通産省(現経済産業省)
の認可を受けて四十年を迎えます。
組合を取り巻く環境、情勢は厳しい
ものがありますが、簡素化の中にも知
恵と工夫を出しあつて、これから一
歩一歩、業界の秩序維持に協調と協
和をもつて、飛躍を期待するところで
す。

さて二十一世紀を迎えてはや五年、
この間わが国経済、とりわけ製造業に
とりましては国内景気の長期低迷や、
金融機関の混迷、資産、物価デフレの
深刻化、さらには海外企業(アジア・中
国)の追い上げ、ものづくりの空洞化
等、まさに厳しい試練と競争の連続で
ありました。最近、一部にやや明る

さが見え、景気回復との見方もされ
ておりますが、昨年十二月の日銀発表
の企業短観では、大企業製造業の景
況感が七、四半期ぶりに悪化した一方、
非製造業や中小企業が景気の下支え
役として浮上してきたとしています。

しかし、原油高、資源素材高等の影
響による、世界経済の減速懸念も根
強く樂觀を許さない状況が続くと予
測されています。

当業界を取り巻く環境も、アジア、
特に中国地域の旺盛な古紙需要が続

いていることや、原油高等の資源ショッ
クとも言ふべき事態の中にあり、東西
を問わず厳しさが増していると言つて
も過言ではありません。組合員各位
には、この状況を正しく把握し、協調
とフェアな競争でわが業界が更に発展
するよう各位が自覚して、原材料の
安定化、紙管製品価格の安定・向上
を目指し体質強化を図り、健全な経
営を効果的に運営する手段を業界全
体で考えようではありませんか。

全国紙管工業組合では、一昨年に
続いて、業界の発展を賭け、技術革新、
生産革新により生産性を高め成長を
維持すべく、昨年十月名古屋において、
二年連続で「トヨタ生産方式を学ぶと
し、「現場改善活動」をテーマに、全
国合同研修会を、組合員、関連業界
の方々百余名の参加を頂き盛大に開
催いたしました。

また、青年部会の活動も昨年六月
には「紙管用語集」が発刊され、活動
も七年目を迎えより活発な活動を期
待するところです。

微力ではございますが、業界発展の
為に努力致しますので本年も組合員
皆様のご指導、ご鞭撻を賜ります
ようお願い申し上げます。

今年の組

合員各位のご
繁栄と、ご健
勝を心より祈
念致します。





「次世代に期待するもの」

副理事長 下 睦 正明

西日本紙管株式会社
代表取締役

新年おめでとうございます。昨年は自然災害が多く、まだその影響が残っている所もありますが皆様には良い年を迎えられた事と存じます。

経済情勢をみても一部の業種では、活況を呈しています。多くの企業は依然として厳しい状況が続く、コスト削減やリストラを迫られているのが実情ではないかと思

います。ここ十年ほどのデフレ経済の中で、企業がコスト削減やリストラを進めた結果、振り返ってみるとここ数年、工場での事故や火災などが多発したり、品質上の問題などが新聞紙上にたびたび取り上げられています。原因は設備の老朽化や、保守管理の問題、システムの問題、人為的なミスなどさまざまですが、その底流にあるものは何なのかと考えざるを得ません。

いろいろ考えてみましたが、工場や、設備、機械、装置は表面的には自動で動いているようですが、すべて人が造ったもので、最終的にはそこで働く人々の資質、能力、経験といったものではないかと思われ

ます。我々団塊世代が就職をして、仕事を先輩や上司から教わった頃は、今から比べると、まだまだ余裕があったと思います。教える側も教えられる側も時間を取つていられたし、また教わる側も一生この会社で働くということが当たり前で、余程の事がない限り、辞めるとい

う事は無かったです。一方現在では、企業の経済的な環境では、十分時間を取つて入社した人を教育する余裕もなく即戦力に早くなつてもらいたいと急ぎ、若い人の試行錯誤の積み重ねや、時間をかけて考えるといった事をできなくさせているのではない

でしょうか。また、社会の風潮や、家庭の環境なども影響して、いやなら辞めれば良いと簡単に辞めてしまうことで、悪循環に

陥っているように感じられます。

このような事が続くと、物を造るということに対して、興味を持てなくなるのではないのでしょうか。

たとえば、紙管はどういう理屈で形になっていくのか、何故この様な方法をとらなければいけないのか、という様な疑問を持ったり、興味を持つ事が大変重要な事と思

います。最近ファーストフード店やコンビニ店その他で、よくマニュアル化が進んでいますし、製造業でもISOの導入でマニュアル化が進められています。マニュアル化は確かに非常に重要な事ですが、マニュアルどおりにやれば事足りるということではなく、何故そうなっているのかを考える事が必要だと思

います。色々考え、物を創り出していく事は大変面白いことです。「なんでだろうー!なんでだろうー!」といきましょう。



「次世代につなぐもの」

副理事長 横田 靖啓

三協紙業株式会社
代表取締役

新年明けましておめでとうございます。

平成十七年の新春を組合員各位にはご家族ともどもご健勝でお迎えのことと存じます。

昨年は色んな面で大変な一年だったといえます。特に、「災」と言う字が示すように、自然災害、天災である台風、豪雨、地震に翻弄された二年であったと言えます。その中でも、日本では新潟県中越地震であり、世界的には暮れも押し詰まった時期にインドネシアのスマトラ島沖で発生した地震が象徴的でした。

平成十六年の景気は、輸出と設備投資をけん引役として、ようやく景気の裾野が広がりましたが、回復の気配があると言われていました。しかし、暮れには早くも先行き黄信号が点滅しつつあるということで、日銀の発

表によると大企業製造業で悪化の気配が見え始め、今後の見通しも大企業も中小企業もほぼ全業種先行き悪化を予測していました。

紙管業界の昨年はどうであったかと言えは、本当に厳しい一年であったと言えます。特に一昨年の暮れにかけ行われた紙管原紙の値上げに伴う紙管製品への価格転嫁が思うように進まず、紙管の市場がユーザーの海外転向等に伴い狭くなつてきており、受注確保のためから値上げ出来なかったということもあつたでしょう。更にここきて、原油高騰に伴い接着剤の値上げがいよいよ本格的に動き出したようで、我々紙管業界としてはますます環境的にも厳しくなりまさしく冬の時代にあると言

えます。このような状況下にある紙管業界としては、これから若い世代によつて新しい感覚、感性で業界を改革して行く時期が来ているのではないかと思います。今や変化の激しい時代です。極端に言えば、今までの十年が現在では一年に相当する位の速さで変わつていくような気がします。こうした時代になれば、やはりそのような変化に対応できる感覚、感性を持つ若手特に青年部会を中心とした方たちに期待したいところです。徐々にでもこうした方向に進み、これからの紙管業界が発展していく基礎作りができる年になることを念願して年頭の挨拶といたします。

基本方針

- ① 紙管製品製造業界の関連情報を収集し配布する
- ② 組合員企業の生産、販売、労務状況の調査を行う
- ③ 紙管製品製造業者の組合員への勧誘を行う
- ④ 地球環境の保全に関する諸事業を実施する
- ⑤ 紙管製品製造に伴う各種研究会等を実施する

● 全国紙管工業組合ホームページ
http://www.zenkokushikan.jp

「合同研修会の報告」

技術開発委員会 下駐正明

去る平成十六年十月十三日、名古屋市のルブラ王山にて、前年に引き続き大西マナージメントソリューションの大西正規先生の講演による「トヨタ生産方式による生産性向上を達成する現場改善活動」についての研修会を開催いたしました。

今回は、研修会の内容を我々紙管製造メーカーにより合ったものにするため、大西先生に紙管工場を見学して頂き、参考にして頂きました。

研修会の内容は紙管製造現場において、生産性向上を達成するため、どう改善していくかを、より現場的に、また実践的に①製造現場の改善が会社を強くする②現場改善の心得③「ジット見て」改善…JM活動とは④生産現場のムダとり等を講演して頂きました。

実際に工場を見学して、その内容を取り込んだ後の講演で大変参考になることが多く、その後お聞きしたところでは、ある組合員の会社では、現場でテキストを配り研修会に参加された方をリーダーにして勉強会をされたとの話もありました。

今回の研修会の参加は大変多く、組合員二十九社七十一名、製紙メーカー六社十一名、代理店七社十名、新聞社三社三名、総勢九十五名の参加を得て開催され、また研修会終了後、恒例の交流懇親会も開かれ、盛会に

終了致しました。

最後に、今回快く工場見学を受け入れて頂いた、日本紙管工業(株)滋賀工場殿及び(株)鈴木松風堂本社工場殿に厚くお礼申し上げます。



紙管原紙統計表

(数量t・金額百万円)

年 月	生 産	計	出 荷		その他	月末在庫
			数 量	金 額		
平成11年	307,670	309,643	274,743	17,460	34,900	18,071
12年	313,845	313,200	279,401	17,560	33,799	18,716
13年	306,083	300,718	268,677	16,536	32,041	21,837
14年	305,995	310,189	273,582	15,952	34,078	19,325
15年	318,774	315,544	290,840	18,289	24,704	22,001
16年5月	25,064	24,671	22,793	1,365	1,878	24,916
6月	27,509	26,262	24,043	1,447	2,219	26,340
7月	26,636	26,721	24,703	1,487	2,018	26,258
8月	22,921	24,005	22,124	1,338	1,881	25,174
9月	26,434	26,046	23,832	1,427	2,214	25,562
10月	27,290	27,732	25,278	1,510	2,454	25,120

経済産業省 紙・パルプ製品統計月報

高性能紙管用接着剤

HMノールCK-551 寸法安定性良好
HMノールCK-661 耐圧強度良好

完全水性紙管すべり剤

スライダーKS 漏れ跡無し

紙管用接着・すべり剤製造販売



株式会社森川商店

代表取締役 森川敬介

【本社】京都市下京区堀川五条上ル 【テクノセンター】草津市馬場町字宮川原1200-39
TEL: 075-341-8121 TEL: 077-563-8874
FAX: 075-341-8143 FAX: 077-563-8894

http://www.morikawashoten.co.jp E-mail:techno@morikawashoten.co.jp

中芯原紙、紙管原紙
美粧段ボールケース



株式会社岡山製紙

取締役社長 佐藤 勇

〒700-0845 岡山市浜野1-4-34

TEL. (086) 262-8750

FAX. (086) 264-4943

HAYASHIBARA
GROUP

福山製紙株式会社

代表取締役社長
伊藤 晃

〒532-0031 大阪市淀川区加島2-2-1

TEL.06-6301-2131 FAX.06-6301-2919

包装と物流の新しい可能性を探る



本 社
ホームページ

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25
梅田阪神第一ビルディング (06)6345-2371
http://www.rengo.co.jp/

東部地区

立山製紙株式会社

営業部 増田基由

新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い致します。

平成十六年を振り返りますと中国特需、好調な米国経済を背景に輸出産業、素材産業が、牽引役になり日本経済もようやく明るい光が見えてきました。しかし好調なのは鉄鋼、機械等一部の産業で、一般の中小企業は依然として厳しい状況です。さらに秋口から電機機械や化学産業等で悪化し、先行き警戒感が強く決して明るくはありません。

私も紙管業界におきましても、需要家の海外移転、紙管から他の素材への変更と、量を望むのは今後も難しい状況です。昨年はこの状況下で紙管原紙の値上げを受け、需要家に価格修正のお願いに明け暮れた一年でした。残念ながら需要家の抵抗が強く、また価格修正の熱意が足りなかったこともあり、当社としても満足な結果に至っていないのが現状です。

資本主義経済のなかで自社の発展のために拡張に努力する事は当然の行動ですが、其の手段として無軌道な安値販売は業界の強調を乱し、強いては自分の首を絞めることになるのも事実です。この矛盾の中で自社の利益を追求し、紙管業界の発展、融和を図る特効薬を思いつくことは出来ませんが、手段のひとつとして、十月十三日に全国紙管工業組合主催の研修会で、大西講師が講演された「現場改善活動」を実践することが大切だと痛感しました。

企業が社会に貢献し存続発展するには、利益を拡大しなければなりません。その方法としてムダを徹底的に排除して原価を下げ、利益を上げる。また、顧客及び社会の要求を製品、企業理念に展開し、そのことによって各企業のレベルを向上し、さらに紙管業界全体の技術力、モラルを上げ、他業界に負けない体質を構築して行きたいと考えています。

静岡地区

日本紙管株式会社

専務取締役 牧野幸良

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年を象徴する文字は「災」、国内に於いては、大雨、台風、地震と続き、そして年末にはスマトラ沖地震とインド洋大津波、未曾有の災害となりました。自然の恐ろしさを感じ知らされましたが、被災された方々、関係される方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、日本国内の景気の流れは、一部の先端企業と輸出関連業界により名目上は回復基調にあるようですが、一部を除く多くの業界の実態は、安価な中国、東南アジアの製品の流入と、素材価格の高騰、低成長化の中の需要の落込みと非常に厳しい中にあると思われます。また、グローバル化した世界経済の組み立ての中に有って、アジア経済の動向、国内にあつては少子高齢化社会の到来を前に今後の方向の見極めと、山積する課題の中にあつて、生き残りをかけた各種業界内外の変革、再編、統合の流れは、この静岡県下に於いても、すさまじい速さで動いております。

当業界も成熟産業となり、需要の伸びが期待できない中にあつて、個々の企業に於いては、改革、革新、開発の努力を怠る事は出来ません。ここ当分、私たちが長年育ててきた紙管の重要性、必要性は、産業界に受け入れられにくくとは思いますが、変化する時代、変化しなければならぬ時代を認識し、また、このような時こそ、組合の役割は、大きく重要になって行くと思われれます。当組合静岡地区部会の一員として、微力ながら組合活動を手助けするとともに、紙管業界がさらに強く発展するよう行動して行きたいと思ひます。

中京地区

合資会社ヤマモトシキ

足木 秀比人

平成十六年九月より社長という大役を任せられ、あつという間に四ヶ月が過ぎてしまいました。一日、一日が私にとつて非常に貴重な時間だと痛切に感じられる今日この頃です。

さて、表題の「紙管業界の将来と展望」というテーマですが、私にとつて大変荷が重いお題でありますので、ここでは「弊社の将来と展望」に改題することをお許し願ひ、進めさせていただきます。

弊社も今期で五十四期を迎えることが出来ましたが、昨今の弊社を取り巻く情勢には大変厳しいものがあると認識しております。一昨年以来の原料高、思う様に進まない製品の値上げ、ユーザの海外進出による受注減、お決まりの短納期・小ロット化等…。良いことはどこにも見当たらず、問題ばかりが山積み状態です。こうした状況の中で外(拡張)ばかりを見ていると、販売価格の下落・無理な受注によるコストアップなどで疲弊をきたすばかりです。そこで、少々の変化にはビクともしない体制、社内より利益の生み出せる体質に作り変えて行くことを社員に認識させました。大変お恥かしいことですが、今まではお題目を唱えているばかりで、何一つ具体的な目標・活動を実践しておらず、昔ながらの紙管屋でしかなかったのです。そこで「今までと同じやり方ではダメ!」を合言葉に、5S活動を中心とした安全と品質の徹底、ミス・ロスの削減、コストダウンに繋がる省力化などを推進し、最終的には社員全員参加の経営(小さな会社ですから)を目指すべく、生き残りをかけた活動に取り組んでまいります。

最後になりましたが、今後も全国紙管工業組合の会員の一人として皆様と協調しながら、また自己研鑽にも務め、業界の更なる発展に尽す所存ですので、竹本理事長様をはじめ紙管業界の皆様方にも、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

北陸地区

大栄紙管株式会社

取締役 中島浩志

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新潟県中越地震やスマトラ島沖地震による津波災害や多発する犯罪など暗いニュースが多かった年でしたが、日本経済においては緩やかながら景気回復の兆しが見えてきていると報道されていました。しかしながら紙管業界においては、年はじめからの原料高に加え、顧客への価格修正が浸透せず大変厳しい状況が続きました。

当社は今年創立四十四年目を迎えます。創業以来、繊維関係の紙管を主として製造販売してまいりましたが、ここに来て繊維メーカーは積極的に生産拠点を海外に移行しております。これに伴い北陸産地の繊維加工業者が減少し、その影響による受注量・売上高の減少をいかに吸収しているかが今年の当社における最大の課題と思われます。また、今年は中国繊維生産の輸入規制枠撤廃や原油価格の高騰による材料高など日本の繊維業界を取りまく状況は益々厳しくなると予測されます。

当社としては、繊維用紙管の受注量減少を踏まえた上で、新商品の開発や新分野の開拓に積極的に取り組んでいきます。同時にもう一度原点に戻り、顧客が望む製品作りを目指し、全管理項目の見直しを実施し、「無駄・無理のない企業経営」「信頼のおける紙管屋」を目指し日々努力してまいります。

また、私自身も以降は同業他社の皆様方との交流により親交を深め、業界の発展に微力ではありますが寄与できればと思っております。

厳しい環境下ではありますが、「紙管屋」というこの仕事に「夢」と「希望」と「誇り」を持ち続け、明るい未来を見据えていきたいと思っております。

中国九州地区

カオル工業株式会社

岡山工場 工場長 竹内 茂

新年あけましておめでとうございます。

平成十七年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

紙管業界の中でも弊社は小径紙管を得意としています。

昨年は業界全体に需要・コストの面で厳しい状況が続きました。そんな折、弊社は地域・流通を見直し、岡山に工場を立ち上げ四年が過ぎ、私は昨年度に岡山に移り住み新たな一步を踏み出し一年が過ぎました。

交流の無かった地域でありましたが、いろいろな方に出会い、助言を受け成長させていただきました。

特に中国九州の地区部会の方々には大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

この新たな出会いで再認識した事です。自分たちの業界は自分たちで切り開くという事を再認識し、そして顔を見ながら話すといった基本的なコミュニケーションがいかにも大切かも再認識しました。

ネットワーキングが進む中で世の中のデジタルの進化は目を見張ります。コミュニケーションも文字でやり取りされ、対面し顔を見ながら会話するといった機会が一段と少なくなりました。ユーザーの要望も数字で管理といった機会が増えてまいりました。

本場にこれらコミュニケーションが成立するものなのかと、デジタル化を体感し改めてそう感じ、極力対面し会話するといった心がけを実行しています。

時代背景に展望も変わろうかとも思いますが、昨今では環境問題・リサイクル性が重要な要素にあげられます。

弊社、または個人としては小径紙管での得意分野を新規開拓すべく奮闘し、そして紙管業界の明るい展望に微力ながら貢献していきたいと思っております。

大和板紙株式会社

代表取締役社長
北村光雄

〒582-0004 大阪府柏原市河原町5-32
TEL 0729-71-1445 FAX 0729-71-1449



NIPPON DAISHOWA
PAPERBOARD

日本大昭和板紙株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目1番3号
TEL:03-3242-7311 FAX:03-3242-7312

■生産会社

日本大昭和板紙東北 日本大昭和板紙関東
日本大昭和板紙吉永 日本大昭和板紙西日本

「これからの」事情

中間法人 iridi 事業企画課 岡部 紀彦

私どもは二十数年来、産業廃棄物の中間処理を中心に事業を行っています。そのグループ会社のひとつでは、使用済みペットボトルを原材料のポリエチレンテレフタレート(PET)に戻すリサイクル事業を行っています。再生されたPETはカーペットや衣類などの原料として使用しています。

しかしながら、リサイクルする技術が確立されているペットボトルを例に取ってみても、近年、中国への輸出货量が増え、国内で使用済みペットボトルの奪い合いが起きています。ペットボトル推進協議会の調べでは、市町村分別収集されるペットボトルと、スーパーやコンビニ、自販機、鉄道、高速道路等から主に事業者等により回収され国内での再商品化、または輸出等に回されているものを加味すると、二〇〇三年度の回収率は六〇・〇%とされています。競争は激しくなっていますが、海外を視野に入れた取り組みが次第で向上の余地はまだあります。

ペットボトル以外のリサイクルにも注目していますが、そのうちの鍵のひとつは、回収方法にあると考えています。

「分ければ資源。混ぜればゴミ」という考えのもとから、予め分けられたものを小ロットで効率よく回収するというやり方、あるいはもともと混ざったゴミを広域的に集め、一拠点で選別することで資源を生み出すと言うやり方。そのためには、排出市場を鑑み、丁度、宅配便のようなステーション(集積所)を配置することが必要となります。

そこで、我々廃棄物処理業界はこれまで各社個別に事業を展開してきましたが、施設の増強や集荷ルートを開拓するために、大同団結し協業化することでリサイクルなどの新しい需要に応える段階に入っていくと睨んでいます。協業者間で一定の数量を安定供給することで、「出口」を確保し、分別加工して得られた「原料」を販売することを描いています。

話は変わって、京都議定書が今年二月十六日に発効されます。一九九七年十二月の国連機構変動枠組み条約第三回締約国会議(COP3)で採択されて七年余。日本が

らの発信である京都の名を冠した国際法が正式な力を持つことになりました。

運用ルールの中には、森林のCO₂吸収をCO₂の削減分とする仕組みや、先進国が発展途上国の温室効果ガス削減事業を支援して自国の削減分に組み込む「クリーン開発メカニズム」、排出量に余裕がある国が余裕のない国に排出枠を売る「排出量取引」などの枠組みが決まりました。この京都議定書が発効される前に述べるのも憚るのですが、昨年度のCO₂の排出量は景気回復を受けて、二年連続の増加になり、また家庭やオフィス、運輸などからの排出量も増えている模様で、日本の温暖化ガス削減目標の達成は一段と困難となっています。

★ワールドニュース★

北海紙管株式会社

「中国に於ける紙管製造会社設立のお知らせ」

中国における紙・板紙の生産数量は、二〇〇三年に約四三三万トンと、わが国を上回る世界第二位の地位を占めています。中国における紙・板紙の生産数量は今後も経済成長とともに拡大を続けていくものと思われ、それに伴って製紙用紙管の需要も拡大していくことが期待されます。また製紙産業以外にも、多くの素材メーカー、日用品メーカーなどが今後中国における生産規模を拡大していくことが期待され、各種紙管に対するニーズも高まってくるものと予想されます。こうした状況下、北海紙管株式会社(北海道札幌市、社長:長谷川 昇氏)と日本

紙バルブ商事株式会社(東京都中央区、社長:松谷 克氏)は、中国の製紙会社が集積し、また日本の製紙会社も進出している浙江省に、共同出資による日系企業独資による紙管製造会社を昨年十二月設立され、それぞれの中国事業の拡大を図っていくことを決定しました。



繰り返しますが、そのような中でも、廃棄物等の回収効率を上げることでガソリンの消費を抑えたり、またゴミから生み出した安定的な原料や燃料を供給することで、CO₂削減に微力ながら貢献していきたいと考えております。

古紙(リサイクル品)を原料として造られる紙管は、納品後もお客様等から使用済み紙管を回収し、製紙会社を経由して新たな紙管原紙として使用されている、言わば「紙管10紙管」は、回収の行い方とともに、私どもがこれから行ううえでの一助になることでしよう。最後となりますが、異業種間での情報交換が行えることを幸いに感じているところです。これからも引き続き宜しくお願い致します。

ソノコ

「中国の紙管工場を買収」

ソノコは、中国の寿光にあるアールストロームの紙管・巻芯工場の買収を完了した。買収価格は公表されていない。買収はソノコ(米国)の子会社、ソノコ・シンガポールが行った。アールストロームは、一時的な措置だとしているが、この売却で中国市場から撤退したことになる。

ソノコはこれまで上海に紙管用板紙工場と巻芯加工用プラントを持つほか、中国南部の開平で紙管・巻芯工場を経営していた。また江蘇省烏江で、紙管・巻芯工場を新たに建設中だった。この工場は計画では七、九月中旬に営業運転を開始する予定だったが、現在は年末の操業開始を見込んでいる。

ソノコ社長兼CEOのデローチ氏は「今回の中国における事業拡大は、需要家がどこで事業を始めても必ず当社の技術を提供できることを明らかにしたものだ。当社の需要家である業界または企業が、これまで北米・欧州に置いていた生産拠点を、今後は中国を中心とする海外へ移していくので、今回の措置はますます重要な意味を持つ。当社は今後も、成長を続ける中国市場での競争に参加していく」とコメントした。

このほかソノコは、ヤタイから浙江省平湖の紙管工場を買収している。買収価格は同じく公表されていない。同社によると、この買収でソノコは中国最大の紙管・巻芯メーカーになるという。

再生紙を使った紙旗

「エコ・ペーパー・フラッグ」



弊社実績

'03 3/9 名古屋国際女子マラソン (中日新聞)

8/31 北海道マラソン (北海道新聞)

12/7 山陽女子ロードレース (山陽新聞)

'04 1/25 大阪国際女子マラソン (産経新聞)

8/29 名古屋国際女子マラソン (中日新聞)

12/12 北海道マラソン (北海道新聞)

全日本実業団対抗女子駅伝競走大会

(ぎふ女子駅伝) (支援推進委員会・推進協議会)

12/23 山陽女子ロードレース (山陽新聞)



資源を無駄にしない

エコ・ペーパー・フラッグ

エコ・ペーパー・フラッグは旗、軸共に再生紙を使用しています。イベントで使用後、さらに再生可能です。



有害物質を発生しない

エコ・ペーパー・フラッグ

今までは軸の部分に塩ビ管等プラスチックが使用されてきました。エコ・ペーパー・フラッグの軸は紙管(再生紙)を使用しておりゴミとして燃やしても有害物質を発生しません。

製造・販売カオル工業株式会社

本社工場

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台6-1153
TEL 042-744-2251
FAX 042-744-2106

岡山工場

〒703-8206 岡山県岡山市貫田2-17-1
TEL 086-275-9711
FAX 086-275-9712

2005年
2月25日(金)
オープン予定

紙の和雑貨 体験工房

紙でこんなんできたー

京都の町の真ん中で紙にこだわり百十二年。鈴木松風堂が、紙の魅力と無限の可能性を伝えたく、体験工房をひらきます。

私たちの記憶の奥にあるもの。紙の飛行機、紙の船、紙の人形、紙の家...京都のむかしからの伝承の技術で、雑貨や玩具を紙で作ります。

手作りのよろこびと、素朴な科学を体験も体験してもらえます。

柿渋(かきしぶ)、胡粉(こふん)、仮漆(にす)、紙の粉(このこ)汁(じゅ)る、蠟(ろう)、松脂(まつやに)、樟脳(しょうのう)、膠(にかわ)、布海苔(ふのり)顔彩(がんさい)...昔からの自然素材を使い、環境にやさしいものづくり。約二百名収容のスペースはもちろん、紙のテーブル、紙のイス、紙の棚、紙の壁の部屋で体験して頂けます。



株式会社 鈴木松風堂

紙の和雑貨体験工房 準備室

お問い合わせ・予約
TEL 075-231-5003

075-231-3030

メール: kobo@koyorishop.com

(電話受付時間 9:00-17:00)

くわがき、はまなかまで

特許出願中

新無可塑剤型 紙管用接着剤 A-560シリーズ



アイカ工業株式会社
東京本社 化成品カンパニー営業部
東京都練馬区豊玉北6-5-15 アイカ東京ビル
TEL 03-5912-2774



紙は時代のメッセージー。

富山製紙株式会社

代表取締役社長 寺崎 敏治

本社工場/富山市下新西町3番14号 〒930-0807
TEL (0764) 32-1147 FAX (0764) 31-4498

interpack2005

視察ツアーご案内

●ツアー期間 平成17年4月23日(金)～28日(木)



技術情報委員会では組合創立四十周年記念事業の一環として、来年四月にドイツ・デュッセルドルフで開催されます「インターパック二〇〇五視察ツアー」を企画致しました。当組合も過去二回の視察を実施し多大な成果を上げました。今回は、このインターパックを十二分にご見学頂きます。その後はドイツ国内の紙管業界関連会社や施設などの見学を現在調整中です。まだ完全な見学日程は決定しておりませんが、ぜひ世界の紙管並びに包装資材業界の最新動向を自分の目で調査分析しては如何でしょうか。

最新情報によりますと、紙管製造機械類のメーカー出展はないようですが、関連業界の動きを知ることも新分野・新用途の開拓に役立つのではと存じますので、奮ってご参加頂く様お願い申し上げます。

ツアー詳細は、組合事務局まで問い合わせ下さい。

見所・特徴・傾向

今回で第十七回目を迎える「インターパック」はデュッセルドルフで三年毎に開催される包装機械・資材、それに製菓機械の国際見本市です。アメリカやフランス、イギリスなどで包装機械の展示会が色々開催されますが、スケールの大きさや展示内容において世界一を誇っています。

三年に一度のビッグイベントのため、世界各国からの出展者は市場ニーズに合致した製品や革新テクノロジー、最新アイデアなどの発表スケジュールをこの「インターパック」に合わせているといえ、また来訪者もそれを期待して訪れるため、デュッセルドルフ見本市会場の十七のホールは今回も活気溢れる多くの商談が展開されることでしょう。

公式サイト <http://www7.interpack.com/>



セキスイエスダイン株式会社

環境に優しい 紙管用接着剤



大きく育てよう---市場に学び..可能性にチャレンジ

大阪市北区西天満2-4-4 (堂島関電ビル5F)
TEL: 06 (6365) 4603 FAX: 06 (6365) 4607

紙管用接着剤

コニシ株式会社 代理店

株式会社 旭 栄

大阪市北区天神橋1-1-1 電話 06-6354-0356

環境に配慮した

無可塑剤型

紙管用接着剤

ボンドCNシリーズ

ボンドCN140 ボンドCN150

コニシ株式会社 (ボンド事業本部)

本部 / TEL.06-6228-2951
東京支店 / TEL.03-5259-5734



昭和高分子の
紙管用接着剤

ポリゾール



昭和高分子株式会社

取締役社長 柏田 邦

本社 〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-20
電話 03-3293-8844 (代表)

支店 大阪・名古屋・仙台・福岡
営業所 富士・高松
工場 伊勢崎・高崎・竜野・大阪